

よみがえれ、 科学技術立国日本

校長 山中 泉

10月6日に今年のノーベル化学賞が、鈴木章、北海道大名誉教授と根岸英一、米バドニー大特別教授に決定する。二ノノスが飛び込んできました。混迷する世相の中において日本を元気にする話題でした。

さて、国土が狭く地下資源に恵まれていない日本の第二次世界大戦後のまれば見る経済発展は、高度な科学技術力によるものでした。世界の人々の驚異の出来事であり、日本を本手にした経済発展の取り組みをする国々がたくさんありました。そんな日本も1990年代のバブル崩壊以降停滞期を迎え、現在では社会全体が閉塞感に包まれています。

この推移を考察する時、歴史的視点で眺めてみることもいいと思います。例えば、明治維新の文明開化と第二次世界大戦後の経済発展は何が類似するものがあるのではないかと推定します。

江戸時代の儒教精神が勤勉な精神文化を形成し、寺子屋に代表される読み書きそろばんの教育水準の高さが、明治に流入した怒濤の西洋学問を吸収する受容力として備わっていました。そして、戦後の経済発展は外国に追いつき追い越せと勤勉に自分の仕事に精進した結果と考えられます。共通するキーワードは「勤勉性」が挙げられます。

しかし、バブル経済以降から享乐的レジャー文化へと移行し、本来備わっていた勤勉性を失わせるような価値観の多様性が日本人の精神文化を荒廃させたといえます。また、子どもたちの生活環境も、テレビゲーム・携帯電話の普及と便利さを追求するもので溢れています。見方を変えれば、我慢すること、コツコツ努力することの価値観が失われている環境のように見えます。日本人の勤勉さの価値を再認識し、自分の人生観の中しっかりと位置づけること

*Stand up again. Our country.
Japan with the technology that it should be proud of.*

が義務だと感じます。

一つの提案は、ものづくりの感動や深く探究することの喜びを体験することです。すなわち自然科学分野への興味関心を高め、探究する心の育成を図ることが考えられます。

本校の理数コースにはそんな期待が込められています。理数コースでは、山梨大学との高大連携講座を前期に9講座開設し、毎回工学系の興味ある講義や実験を体験できます。また、エネルギー教育や自然科学教室など楽しい企画を提供しています。次世代の科学技術立国日本の立役者になる人材が一人でも多く巨摩高校から育っていくことを期待しています。



特集

読めばわかる。
これが巨摩高校の
理数コース!!

皆さんは「理数コース」にどのようなイメージを持っていますか。みんな大学進学を目指して頑張っていますが、勉強だけでなく部活動にもとても積極的です。また、理学学部はもちろん、文系学部への進学希望にも対応した授業を行っています。理数コース主任に、理数コースならではの取り組みの一端を紹介してもらいました。

理数コース主任 花形知子
巨摩高校の理数コースでは、科学に対する興味関心を高め、より高い学力を養うためにさまざまな取り組みを行っています。

①「高大連携スーパーサイエンス」
各分野で活躍されている大学の先生が、巨摩高校に来校し、最新の学問についてわかりやすく手ほどきをしてくれるので、理数系の学問の面白さがわかるとともに大学進学時の進路選択にたいへん役立つものです。

②「エネルギー教育」
理数コース1年生は夏休み中に福井県へ原子力関連施設を見学しに行きました。「文殊」「普賢」など、なかなか見る機会のない施設を見学して、その高度な技術や規模の大きさに驚き、大きな刺激を受けました。

③「数学検定」
高校3年間で数学の力がどのくらいついたかをみる検定です。今年、理数コースから準1級を取得した者が3名で

ています。理数コースでは、数学に非常に力をいれているので、普通コースに進んだ場合に比べ、3年間で歴然とした力の差が生じます。

●(準1級合格者)荻野晃大・加藤駿
折本梅寛之(いずれも3年生)

④「数学、理科について」

③でも、触れましたが、理数コースでは、数学、理科にたいへん力を入れています。放課後や、早朝などに課外講座や補習を行うなど1年次から手厚く指導し、その結果として、模擬試験などでも、県内のトップクラスに常に食い込む生徒も出ています。国立大学の理系を希望しているならば、理数コースに入ることに、これが近道です。

最後に――。ここ数年の進学実績にはめざましいものがあり、東北大、北海道大、横浜国立大、筑波大、千葉大といった大学に、合格者を出しています。地域の中学生の皆さんには、通学時間も短く、放課後の時間も学習等に有効に使い、地元の大先輩として一人一人丁寧に指導してもらえ、巨摩高校の理数コースは本当にお勧めだと思います。

巨摩高にゆーす

メンバーの1人は
巨摩高校の卒業生!!

芸術鑑賞会

オペラ歌手5人によるユニット「LEGEND」のステージを鑑賞。

10月15日、桃源文化会館で芸術鑑賞会が行われ、オペラ歌手5人によるユニット「LEGEND」のステージを鑑賞しました。メンバーの1人、志村糧一さんは、巨摩高校の卒業生です。自分たちの先輩が出演するステージとあって大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。また、活躍する先輩の姿を目の当たりにし、さまざまな刺激を受けました。

先輩が活躍する姿を間近で見て……
嬉しかった。楽しかった。

そして芽生えた、「自分も夢へ向かって」という気持ち ――― ステージを鑑賞して

とても楽しい音楽鑑賞会でした。特に「落葉松」が一番印象に残っています。また、巨摩高の先輩が活躍する姿を間近で見ることができて、嬉しかったし、自分も夢へ向かって頑張ろうと思いました。また聞きたいです。

2部がおもしろかったです。演技がとても上手で楽しく見ることができました。聞いたことがある歌などもあり、ピアノ演奏もすばらしく、聞いていてとても気持ちがよかったです。また、グループの雰囲気がとても良さそうで、みんなで何か一つのものを作り上げることはとてもすばらしいことだと思いました。



KOMA KOU NEWS

本梅寛之(3年・八田中学校出身)

私はこの度、10月2日に実施された数学技能検定の準1級に合格することができました。私の他にも理数コースから2人が合格しました。これは例年にならぬ数だそうで、自分達も驚いています。このような成果が出せたのは、自分自身の努力もあると思いますが、日々の授業はもちろんのこと、放課後も熱心に指導してくださる先生方がいるからこそだと思います。今は志望大学合格に向けて勉強に励んでいます。大学入試でも良い成果を出すことができるように、これからも日々精進していきたいと思っています。

仲亀末季(1年・若草中学校出身)

私は理数コースの1年生で、陸上部に所属しています。入学当初は、部活動後の疲れた状態で次の日の予習や復習がしづかりできなかったのか、とても不安に思っていました。しかし、多くの先生方がサポートしてくださり、授業外でも分からないところは丁寧に教えてくれるので理解できるようになりました。自分で理解できている分、予習や復習は短い時間で済ませ、勉強と部活動どちらも負担を感じることなく、全力で取り組んでいます。これからも自分に言い訳せず、しっかりと両立できるように、また充実した毎日が送れるように努力していきたいと思っています。

宮川康平(2年・榊形中学校出身)

僕は理数コースの2年生です。入学当初は、理数コースでありながら数学がとても苦手、自分分文系だと思っていました。しかし、分かり易くて質の高い授業や課外のおかげで、今では得意教科となり、進路を考えるとき理系という選択肢が増

